

[第 157回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 6年1 2月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 7 年 1 月 4 日 (土) 15時~17時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 熊沢蕃山著・伊東多三郎現代文訳『集義和書』(中央公論社)p.202~
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

2024年12月7日(土)、第156回藤樹人間学塾を開きました。今回は京都から1名、大津から2名を入れて8名の参加でした。

■ テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』(中公バックス日本名著)

■ テキストの見出し

「集義和書」書簡の2 明慧と解脱の逸話、武辺の見分け方、倭約とケチ、人柄の善悪の評判 を輪読し、説明しました。

■ 配布資料

(1)「まなざし475号」、(2)森信三『全一的人間学』「性の分化と合一」、(3)田口佳史「徳は孤ならず、必ず隣あり」(致知)、(4)、横田南嶺「看よ看よ、臘月尽く」(致知)等。

■ 今日のポイント

- ・ 明慧と解脱の逸話…世俗の人は物欲の塵で心をふさぎ、学者は自分の見識で心をふさぐ。無物自然の心でみて落とし物の金銀は、拾って適切な者に預ければよい。
- ・ 人柄の善悪の評判…世の人がこぞって誉める人がいる。この人の人柄は10のうち8は善い。2も悪いのではなくこの人の疵(きず)である。この疵があるために人々が誉めるのだ。
- ・ 『全一的人間学』「性の分化と合一」…この地上における最深の神秘は万物が雌雄に分かれて、それぞれの「いのち」が継続していること。男女はお互いに求め合い、相互補完するようにできている。女性は久遠の母性を持っている。
- ・ 徳は孤ならず、必ず隣あり…徳とは、自己の最善を他者に尽くしきること。徳を積めば、運が強くなり、人生が豊かになる。

■ フリートーキング

- ・ 「親しい人が亡くなった。当たり前朝が来るのではない。今、生かされている自分に感謝し、一日一日を大切に生きたい」
- ・ 「山本玄峰老師が亡くなる前、葡萄酒を美味しそうに飲んで「旅に出る。着物を用意しろ」と言っていて亡くなったのはカッコいい生き方だ」→最期は日々の行動の延長線上にある。
- ・ 「能登の人々にお米を持って行ったら大変喜ばれた。被災した家屋すべてを直す労力が不足しているので、裕福な家が必要最低限の修復で我慢していたのは共助の精神で素晴らしい」等の意見をいただきました。ありがとうございます。

皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。

